



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3012 号 2016.5.10 発行

中学時代、5千円で売春 「これで上履きを買える」 中塚久美子、後藤泰良

朝日新聞 2016年5月9日

支援団体のシェルターで食事する女子生徒=川村直子撮影

■子どもと貧困 頼れない親

「それ、奴隷だよ」

北関東の定時制高校のベテラン教員の言葉を、3年の女子生徒（18）はすぐにはのみ込めなかった。



生徒は2013年から、自動車部品の加工工場に住み込みで働いていた。14年、定時制に入学し、通学しながら週5日、計30時間の勤務。給与明細はもらっておらず、手取りは月2万円弱。そこから定期代を払い、食事は1日1食、袋麺を食べていた。社長にあてがわれた家は外から施錠できず、水はさび臭くて飲めなかった。

「時給も知らない」という生徒の話聞き、教員は15年春、校内で支援会議を開いた。「早く今のところを出て、新しいバイトと家を見つける」と方針を決めて提案した。

「授業に必要」と言って生徒が出してもらった給与明細で、時給は分かった。最低賃金は上回り、勤務日数も合っていたが、詳細がわからない生活費など約4万円が引かれていた。学費も「会社から納める」として1万円引かれていたが、ときどき滞納されていた。

生徒は定時制の保証人になってくれた社長に恩を感じていた。でも、満足な食事ができないのはつらく、15年秋、黙って逃げた。

生徒はもともと実家に住んでいたが、中学卒業と同時に追い出された。連れ子がいた継母に「高校に行きたいなら施設に入って。嫌なら一人で生きて」と言われた。児童養護施設で荒れた姉を見て一人を選んだ。

継母に用意されたアパートに移り、飲食店でバイトした。バイト代は継母管理の口座に入り、手元に届くのは月5千円だけだった。

実家に頼らず高校に行こうと保証人になってくれそうな親戚を探すうち、知り合った人から「働いたほうがいい」と紹介されたのが、その工場だった。

今は交際相手（24）名義で借りた部屋に住む。スーパーでバイトし、収入は月11万円。食事が少しましになり、カレーも作る。

■リストカット繰り返す

関東の高校1年の女子生徒（15）は2年前、東京・新宿のレンタルルームで売春し、男から5千円を受け取った。「これで上履きを買える」と思った。

母子家庭で、母親は生活保護を受けながら、ほぼ交際相手の家で暮らす。生徒もそこで寝泊まりし、日常的に暴力や罵倒を受ける。

社説：不登校対策法案 賛否の溝埋める努力を

中日新聞 2016年5月9日

不登校の子や親たちの賛否が割れたままで、法案を押し通せば禍根を残すだろう。学校外の学びの支えを前進と見るか、不登校を逸脱行動と捉える発想を危険と見るか。子のために、溝を埋めたい。

不登校の小中学生は、すでに二十年近く、年間十万人を超え続けている。子どもには学校に通う義務はないけれど、放置しては、学ぶ権利を守れない。保護者も、子に学ばせる義務を果たせない。

では、どうするか。議員立法での打開策を話し合ってきた超党派の議員連盟が当初まとめたのは、民間のフリースクールや家庭などでの学びを義務教育として公認するという法案だった。

子どもの「個別学習計画」をつくり、教育委員会の認定を受けた保護者は、就学義務を履行したとみなす。計画をこなした子は、義務教育を修了したと認める。

実現すれば、学校一本やりの義務教育は多様化し、不登校現象は解消する可能性があった。

しかし、「不登校を助長しかねない」とか「個別学習計画に縛られ、フリースクールや家庭の自由が失われる」といった異論が相次いだ。法案は見直しを迫られた。

結果、議連が今国会での成立をめざす法案は、かねて文部科学省が取り組んできた学校復帰の方策をなぞったような中身になった。大きな後退といえ、残念だ。

確かに、学校以外での学びの大切さを認め、休養の必要性に配慮して、支援するというくんだりも盛り込まれている。公教育として位置づけるための一歩になり得ると見て、評価する声もある。

けれども、法案には、学校に通える子を正常とし、通えない子を問題視するという旧来の発想が貫かれているように読み取れる。

不登校の子向けの教育課程に基づく特例学校や、教育支援センター（適応指導教室）の整備という既存施策も、併記されている。学校に連れ戻す圧力が強まらないかと心配する声も出ている。

なにより、学校に通えず、蔑視されたり、自責の念にさいなまれたりして、自尊心に深手を負った子をどう救済するのか。社会の差別的な風潮を排し、不登校の子が自分らしく育つ権利を等しく保障するという視点は薄い。

かつて病気や怠慢、非行とされた不登校は一九九〇年代に、どの子にも起こり得るという認識が変わったはずだ。現状を見れば、今度は制度を手直しする番だろう。

子どものための法案である。議連は足並みをそろえてほしい。

読書難しい人への“合理的配慮” 図書館でじわり広がる 前田智

朝日新聞 2016年5月9日

枚方市立中央図書館にある大きな活字の本＝大阪府枚方市

視覚障害や読字障害の人、高齢者ら、読書に困難を抱える人がたくさんいます。誰もが読書を楽しめるようにするにはどうすればよいのでしょうか。4月に施行された「障害者差別解消法」では、図書館や出版社も“合理的配慮”が求められています。新たな動きや課題を紹介します。

■音声・点字で貸し出し



障害者差別解消法で、行政機関は合理的配慮が義務になった。もちろん、身近な公共図書館もだ。2011年に改正された障害者基本法でも、情報を得たり利用したりする手段を広げることが官民に求められており、野口武悟専修大教授（図書館学）は「障害がある人の情報保障に果たす図書館の役割は大きい」と指摘する。

日本図書館協会は3月に、差別解消法についての「ガイドライン」をつくった。合理的配慮の例として、手話や点字などで意思疎通をやすくすることなどを挙げている。大きな活字の本や音声図書、障害があっても読みやすい電子書籍など、読書を助ける機器や環境の整備も求めている。

大阪府枚方市のあんま師・三浦秀樹さん（61）は30代で眼病を患って視覚障害になり、同市立図書館の障害者向けのサービスを活用して、読書を楽しむ。

歴史やミステリーなど、月に5～6点の音声図書を读んでいる。希望する本を図書館に持って行き、音声図書にしてもらうこともある。

リオで“泳冠”誓う 岐阜市で水泳県勢選手ら壮行会

岐阜新聞 2016年05月09日



壮行会で意気込みを語る（左から）今井月選手、小長谷研二選手、金藤理絵選手、宮本敦史監督＝岐阜市柳ヶ瀬通、ホテルグランヴェール岐山

リオデジャネイロ五輪と同パラリンピックに出場する水泳競技日本選手団の岐阜県勢選手らの壮行会が8日、岐阜市柳ヶ瀬通のホテルグランヴェール岐山で開かれた。

リオ五輪に出場するのは、競泳では女子200メートル平泳ぎの金藤理絵選手（Jaked、ぎふ瑞穂スポーツガーデン）、同200メートル個人メドレーの今井月選手（豊川高、岐阜西中出）、男子400メートルリレーの小長谷研二選手（岐阜西SC）。水球男子には足立聖弥選手（日体大、各務原中央中出）が出場する。またパラリンピックには宮本敦史さん（恵那特別支援学校教）が、知的障害者水泳の監督として派遣される。

壮行会には、古田肇知事、青木剛日本水泳連盟会長、県連盟の関係者ら約70人が出席。競泳の3選手が代表の座を射止めた、4月の日本選手権の映像が映し出され、選手らが「皆さんの応援を力にして頑張る」などとリオでの意気込みを語った。

大会出場のため欠席した足立選手はメッセージが読み上げられた。



玉成高共育コースに中学部

長崎新聞 2016年5月9日

「共育コース」中学部の開設に向けて協議する玉成高の教員＝長崎市、同校

長崎市愛宕1丁目の長崎玉成高（上村正和校長、519人）は、心因性の不登校の生徒や教科によって得意不得意の差が大きいなど発達に偏りのある生徒を支える「普通科共育コース」の中学部を来

年度4月に新設する。悩みを抱える生徒や保護者を早期からサポートし、卒業後の進路選択を広げることを目指している。

8月の県私学審議会です正式に決定する見通し。初年度の定員は1年生15人。6月18日に同校で初の学校説明会を開く。

同校の「共育コース」は2009年度に創設し、中学時に心因性の不登校だった生徒と発達に偏りのある生徒とがおおむね半数ずつ通う。1クラス約20人の少人数制で、1学年2クラス。義務教育の学び直しやコミュニケーション能力の養成などを組み入れた独自の教育を実践。全国で注目を集め、入学志願者も増加している。

「共育コースのような取り組みは中学の段階から求められている」と同校の上戸綾子教頭は強調する。文部科学省の12年の調査によると、通常学級で発達障害の可能性がある、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合は6・5%。このデータを基に同校は、市内の小学生にも1学年平均約220人の「配慮が必要な児童」がいると推計する。昨年、小学生の保護者向けの説明会を開きニーズを把握。社会性やコミュニケーション能力を育成する観点からも、中高一貫の継続した教育が望ましいと判断した。校舎は、同校に隣接し3月に閉園した付属幼稚園を改装して活用する。

3月に中学部のプロジェクトチームをつくり、授業内容などを検討している。小学校課程の学び直しをするほか、高校共育コースの先輩たちとの交流による相乗効果にも期待する。

上村校長は「特性は一人一人違って、同じ悩みを抱える仲間との出会いは、心の負担軽減や学習意欲につながる。一人でも多くの子どもたちを手助けしたい」と話す。

認知症、初の本人調査へ 見守り重視から転換

共同通信 2016年5月8日

厚生労働省は2016年度中にも認知症の人たちから初めての聞き取り調査を実施する。医療や介護、就労などの施策に反映させるのが狙いで、1、2月に実施した予備的調査の結果を踏まえ、具体的な時期や規模を決める。国の認知症施策は、家族による介護や地域での見守りなど「支える側」に重点が置かれてきたが、「本人重視」へと転換する。

認知症は早期治療によって症状の進行を抑えることもできるが、当事者団体は「何も分からない、何もできないという偏見が残っている」と指摘。家族や介護者へのアンケートは多いのに、本人からの本格的な聞き取りは行われてこなかった。

震災後の日常作品に 福島美術館企画展

河北新報 2016年5月9日

プロジェクト「ワタノハスマイル」で子どもたちが作ったオブジェが並ぶ会場

東日本大震災後の日常生活から生まれた作品を集めた企画展「絶望でもなく、希望でもなく」が、福島県猪苗代町のはじまりの美術館で開かれている。6月27日まで。

宮城、山形、福島3県の7組が計80点を展示する。このうち「ワタノハスマイル」の出展は、石巻市渡波地区の子どもたちが、津波で校庭に流れ着いたがれきで仕上げたオブジェ。作

品からは震災直後でも明るさを失わない子どものたくましが伝わる。

福島市の詩人和合亮一さんは、企画展のために書き下ろした詩「雲をめぐる」の朗読に合わせ、沿岸の被災地で撮影した写真のスライドショーを上映している。

仙台市の山中紅祐さんは、震災発生の11年3月に父親が手帳に記した文字を、カレンダーに書き写した作品を出品。郡山市の太田貴志さんの作品は段ボール製のレトロな車や家で、昨年まで生活した福祉施設で余暇の時間に制作した。

一般500円、65歳以上250円で、高校生以下は無料。連絡先は美術館0242(62)3454。



特別な旅、手軽に 近鉄、新観光特急「青の交響曲」 大阪日日新聞 2016年5月9日



近畿日本鉄道(大阪市天王寺区)の大阪阿部野橋-吉野間に9月、新たな観光特急「青の交響曲(シンフォニー)」が登場する。横3列のデラックスシート、地ワインや軽食を販売するラウンジ車両など、ゆったりとした空間と豪華な設備が特徴。同社は「『上質な大人旅』を提供したい」と意気込む。

近鉄の観光特急「青の交響曲」(近鉄提供)

落ち着いた雰囲気
で高級感のあ



る「青の交響曲」の客室(近鉄提供)

世界遺産や日本遺産が点在する沿線観光の起爆剤として運行する。近鉄の観光特急としては2013年にデビューした「しまかぜ」に次ぐ第2弾で、今回は一般車両を改造して特色ある車内空間を演出する。

外装は落ち着いた濃紺色が基調で、「青色の列車」が沿線と調和し響き合うイメージで命名した。座席やカーテン、カーペットは質感ある素材を重視し、肘掛けには吉野の竹材を使う。座席は横2+1列のゆとりある配置となる。

ホテルをイメージしたラウンジ車両は、革張りソファや間接照明で上質な空間を演出。バーでは専属アテンダントが沿線の果物を生かしたスイーツのほか、軽食、地ワイン、地酒を提供する。

全席指定で3両編成(定員65人)。運賃・料金は片道1690円。9月10日から1日2往復(水曜運休)走る。

同社秘書広報部は「特別感を気軽に味わいながら沿線の旅を楽しんでほしい。運行を機に沿線の観光資源に注目が集まり、観光客増加につながれば」と期待する。

来園者V字回復、全国3位浮上 天王寺動物園 大阪日日新聞 2016年5月9日

大阪市天王寺区の天王寺動物園の2015年度来園者数が173万人になり、旭山動物園(北海道旭川市)を抜いて全国3位に浮上した。かつて200万人台だった来園者数は娯楽の多様化や少子化を背景に、13年度は116万人まで落ち込んでいた。開園100周年にあたる15年度は、夜間開園の「ナイトZOO」の開催に踏み切ったほか、トイレや手すりも改修。職員のユニホーム刷新するなど内部改革により“V字回復”を成し遂げた。



多くの来園者でにぎわう天王寺動物園の園内。2014年秋に誕生したホッキョクグマ「モモ」も人気を集め、来園者増の要因となっている＝大阪市天王寺区

天王寺動物園は1915年1月1日に開園。国内では上野動物園(東京)、京都市動物園に次ぐ歴史を誇る。日本一高いビル「あべのハルカス」や通天閣と近接し、都市型動物園として発展してきたが、来園者数は1990年代中頃から減少傾向が続いていた。大阪市では橋下徹前市長の下、14年7月に外部公募で動物園改革担当部長に元文部科学省職員の牧慎一郎氏(4

5歳、現園長)が就任し、改革を進めてきた。

■おもてなし

「お客さんに向けて努力していく。サービス向上に努めた」。牧園長が取り組んだのは、

“おもてなし”の徹底だった。老朽化が進んでいたトイレを順次改修し、さびだらけの手すりのペンキも塗り直した。動物の表示案内も刷新、市統一の作業服だった職員のユニホームは迷彩柄をあしらい、新調した。

昨年8月には、開園時間を午後8時まで園長する「ナイトZOO」を初めて開催し、お盆期間を含む9日間で前年度来園者数の約1割に上る13万人を動員。さらに10月、ことし3月にも実施し、好評を得た。

■ハード強化を

追い風に乗る天王寺動物園だが、牧園長は「1位になることに意味があるとは思わない」と言い切る。来園者数1位の上野動物園は300万人を超え、2位の東山動物園（名古屋市）は200万人を超える。さらなる動員増を狙うにも、敷地に限りがあり、動物の個体数を増やすのも容易ではない。

今後の課題は施設投資。牧園長は「来園者に深い動物園体験を提供したい。獣舎の改修をしながら、今いる動物をいかに魅力的に見せられるかを追求したい」と話す。

返礼に障害者がお墓掃除 尾鷲のふるさと納税 読売新聞 2016年05月10日

ふるさと納税の返礼品として、尾鷲市は今年度から、障害者による墓地清掃サービスを新たに加えた。返礼品に同サービスを採用する自治体は他にもあるが、シルバー人材センターへの委託が中心。障害者が清掃を担うケースは全国的にも珍しく、市は「障害者の雇用創出につながれば」と期待を寄せている。（根岸詠子）

同市へのふるさと納税は昨年度、5344件約9400万円に上った。5万円以上の寄付者には、市の特産品を詰め合わせた宅配便「尾鷲まるごとヤーヤ便」が届くことなどが人気の理由とみられる。

同市は今年度もヤーヤ便やサンマずし、尾鷲わっぱなどの特産品を返礼品として用意する中、「地元を離れて暮らす人々に向けたサービスも需要があるのでは」と考え、墓地清掃を新たに加えた。

担当するのは、知的障害や身体障害を持つ人々がシイタケや野菜の栽培などを行う同市三木里町の就労継続支援A型事業所「やきやまふあーむ」。同事業所が公共施設の清掃も請け負っていることから、市が提案した。

市水産商工食のまち課の北村栄世さん（40）によると、同市では地元で墓を残したまま、親類も含めて市外に転出した人が少なくない。お盆や正月に墓参りする際には周辺に雑草が生い茂っていることが多いため、「墓参り前にぜひサービスを利用してもらえたら」と北村さんは話す。

同事業所では26人の障害者が働いており、墓地清掃はこのうち7人が担当する予定。同事業所の管理責任者・塩崎丈夫さん（58）は「職種の幅が広がれば、障害者はそれぞれに適した仕事ができる。墓掃除が大変な高齢者の役にも立てると思う」と歓迎する。

寄付金2万円につき、市内の墓地の墓石1基を清掃。1坪以内の広さを草取りし、希望があれば供花もする。寄付金の一部が事業所の収入になるという。

開始から1か月余りでまだサービスの利用はないが、同事業所で働く坂本純平さん（26）は「一生懸命頑張りたい」と申し込みを心待ちにしている。

全国広報コンクール 川崎市が総務大臣賞 読売新聞 2016年05月10日

■平塚、厚木市などは入選

自治体の優れた広報紙などを表彰する2016年「全国広報コンクール」（日本広報協会主催、読売新聞社など後援）で、川崎市の「かわさき市政だより」15年12月1日号が、広報紙の都道府県・政令指定都市部門（応募49点）の最高賞にあたる総務大臣賞に輝いた。

受賞した市政だよりは障害者雇用を特集。チョーク製造で国内トップシェアを誇り、従業員に占める障害者の割合が7割を超える「日本理化学工業」(川崎市高津区)を取り上げた。記事では、障害者でも簡単に時間計測ができるよう、砂時計を活用しているといった



工夫を紹介した。
受賞紙面を担当した木田さん(右手前)と広報担当職員ら(川崎市役所で)入選した「広報ひらつか」を手にする秘書広報課のメンバー



色とりどりのチョークを並べた写真を表紙に使い、市の多様性を表現。「国内トップシェアを誇るある市内企業の従業員は、70%以上が障害者だ」という事実に合わせて、読者をひきつけた点などが評価された。

製作を担当した市シティプロモーション推進室(当時)の木田哲也さん(34)は『障害者』の視点だけではなく、優秀な市内の一企業としてアピールしたかった」と振り返る。写真も単なる作業風景にはせず、職人らしさが伝わる手や完成した製品にスポットを当てた。市民からは「写真が感性に訴えかけてきた。見た瞬間に全部読みたくなった」といった感想が届いたという。

市政だよりは15年7月からフルカラーになり、構成も大幅に刷新された。同室広報担当係長の萬田聡一さん(37)は「まずはページを開いてもらえるよう、読み物としても面白い市政だよりを作っていきたい」と話している。

全国広報コンクールではこのほか、平塚市の「広報ひらつか」15年6月5日号が市部門で入選。「こども発達支援室くれよん」に通っている子供のケースを紹介しながら、発達障害児の子育て支援について5ページにわたって特集した。担当した市秘書広報課主任の根岸康徳さん(31)は「3か月にわたって取材しました。悩む保護者に寄り添う受け皿があるということを知ってほしかった」という。西山靖朗課長(51)も「これからも市の事業を多くの市民に知らせていきたい」と喜んでいる。

また、厚木市の「広報あつぎ」15年6月15日号の表紙も広報写真組み写真部門で入選。県の『危険ドラッグ乱用防止啓発映像』を活用した多方面への啓発、厚木市の「他世代に届けた平和へのメッセージ～取材の成果を余すところなく活用～」、葉山町の「インスタグラムの公式アカウント その運用からオフ会開催と今後の展開」が広報企画部門でそれぞれ入選した。

県が避難者に生活支援情報本 熊本地震

読売新聞 2016年05月10日

熊本地震を受け、県の支援対策本部会議が9日、県庁で開かれた。県内への避難者を対象に生活支援の情報をまとめたガイドブックを配布するなどして、引き続き避難者の負担軽減に努める方針を確認した。

県の集計(6日現在)によると、県や市町村が提供する公営住宅792戸に、熊本市などから23世帯57人が入居。県内のホテル・旅館では39施設が介助を必要とする高齢者や障害者を受け入れ、児童・生徒も計70人が県内の小中学校に転入している。

避難者に対する生活支援については、県が相談窓口や融資制度を一冊にまとめたガイドブックを作製し、避難者に無償で配布している。県総合政策課は「中身を随時更新し、避難者の生活を支えたい」としている。

会議には県の部長ら16人が出席。熊本県の仮設住宅に使う、くいの提供を検討していることも報告された。

児童虐待「通告する」8割 実際に直面「しなかった」6割 東京

産経新聞 2016年5月10日

児童虐待について、都が実施した都民アンケートの結果が公表された。虐待に気づいた場合、児童相談所や警察への通告を「する」と答えた人が8割を超すなど高い意識の一方、実際に直面したケースでは「通告しなかった」という人が6割超となっており、意識と行動の乖離が見えた。

アンケートには20代以上の男女237人が回答。近所で虐待（疑いを含む）に気づいた場合、児相などへの通告を「しないと思う」と答えた人はわずか3%で、「必ずすると思う」（約32%）「すると思う」（約53%）が全体の約85%を占めた。

一方、回答者のうち実際に虐待を見聞きしたことがあるのは約15%にあたる37人で、このうち「通告したことがある」のは14人。約62%にあたる残りの23人は「通告しなかった」と答えた。理由については「虐待かどうか判断できなかった」（12人）「近隣トラブルがこわい」（3人）「他の人がすると思った」（1人）だった。

都では「虐待を放置することが、痛ましい事件につながることもある。通告者の特定につながる情報は秘匿されるので、疑わしい事例があれば、児相などに確実に通告してほしい」と話している。

引きこもりだった若者が運営のカフェ開店

河北新報 2016年5月10日



社会復帰を目指す女性が目の前でコーヒーを入れてくれる

引きこもりだった若者らが運営するカフェ「ごろりんはうすStory」が9日、秋田市山王にオープンした。同市の精神障害者支援施設「ごろりんはうす」が社会復帰への一歩を踏み出してもらおうと始めた。

施設には学校生活や社会になじめず、引きこもりとなった20～30代の約50人が通う。カフェは、うち13人が体調に合わせながら施設の職員と共に運営する。

内装は精神障害者らの作品を展示する花巻市の「るんびにい美術館」を参考にアートギャラリー風にした。

施設の利用者が描いた絵13枚を飾り、ゆったりと過ごせる雰囲気にした。

メニューは秋田市内のコーヒー店から豆を仕入れたブレンドコーヒー（1杯300円）のみ。コーヒーの入れ方から学んだという女性（25）は「いつか、コーヒー以外のメニューも提供したい」と意気込む。

施設の藤原芳子理事長は「ここで働く喜びを実感し、自分で稼げるようになってほしい」と期待する。カフェは平日午前10時半～午後3時。連絡先は同店018（893）3191。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行